

事務事業名		畜産振興事業		☐ 実施計画登載事業 ☐ 総合戦略登載事業	
政策体系	政策名	01 豊かな市民生活を実現する産業の振興		事業期間	
	施策名	02 地域特性を生かした農林業の振興		☐ 単年度のみ ☒ 単年度繰返 (開始 平成29 年度～)	
	基本事業名	02 農業経営の安定支援		☐ 期間限定複数年度 【計画期間】 年度～ 年度 ※全体計画欄の総投入量を記入	
根拠法令				予算科目	
所 属	部課名	農林水産部農林課		会計	款
	課長名	菅原 博幸		項	目
	係 名	農政係	電話	27-3111	事業
	担当者	星上 順一	内線	7123	
事務事業の概要(具体的なやり方、手順、詳細。期間限定複数年度事業は全体像を記述)		・畜産の振興を図るため、大船渡市農業協同組合が畜産物の生産性向上のための事業に一部助成する事業。 ・助成内容は、人工授精経費補助、公共牧野運搬費補助、牛削蹄経費補助、アカバネ病予防ワクチン接種補助、牛ウイルス性下痢・粘膜病予防ワクチン接種補助の5種目。 ・補助額は、人工授精経費補助1回1,000円以内の額(補助の上限額22万円)、公共牧野運搬費補助1回2,000円以内の額(補助の上限額30万円)、牛削蹄経費補助1頭当たり1,000円以内の額(補助の上限額17万円)、アカバネ病予防ワクチン接種補助1頭当たり400円以内の額(補助の上限額8万円)、牛ウイルス性下痢・粘膜病予防ワクチン接種補助1頭当たり400円以内の額(補助の上限額8万円)とし、補助の上限総額は850千円。 ・主な業務は、①農協から実施計画書等の補助金申請書提出、②市で補助金交付決定の通知、③農協で事業の実施、④農協から実績報告書の提出、⑤市で実績報告書に基づく完了確認野実施、⑥助成金の支払い。		全体計画(※期間限定複数年度のみ) 総投入量(千円) 事業費 財源内訳 国庫支出金 都道府県支出金 地方債 その他 一般財源 事業費計(A) 0 正規職員従事人数 延べ業務時間 人件費計(B) 0 トータルコスト(A)+(B) 0	

1 現状把握の部(DO)

(1) 事務事業の目的と指標

① 手段(主な活動)

前年度実績(前年度に行った主な活動)

①農協から実施計画書等の補助金申請書提出、②市で補助金交付決定の通知、③農協で事業の実施、④農協から実績報告書の提出、⑤市で実績報告書に基づく完了確認野実施、⑥助成金の支払い。

今年度計画(今年度に計画している主な活動)

前年度と同様。

② 対象(誰、何を対象にしているのか) * 人や自然資源等

市内で牛を飼育する畜産農家。

③ 意図(この事業によって、対象をどう変えるのか)

助成事業により、疾病対策等を実施し畜産振興を図る。

④ 結果(基本事業の意図:上位の基本事業にどのように貢献するのか)

安定して農業を営む。

⑤ 活動指標(事務事業の活動量を表す指標)

名称	単位
ア 助成計画畜産農家数	戸
イ 助成実績畜産農家数	戸
ウ	

⑥ 対象指標(対象の大きさを表す指標)

名称	単位
カ 飼養頭数(和牛)	頭
キ 飼養頭数(乳牛)	頭
ク	

⑦ 成果指標(対象における意図の達成度を表す指標)

名称	単位
サ 助成畜産農家カバー率	%
シ	
ス	

(2) 総事業費・指標等の推移

			年度	27年度(実績)	28年度(実績)	29年度(実績)	30年度(目標)	31年度(目標)	32年度(目標)
			単位						
投入量	事業費	国庫支出金	千 円						
		都道府県支出金	千 円						
		地方債	千 円						
		その他	千 円						
		一般財源	千 円			666			
		事業費計 (A)	千 円	0	0	666	0	0	0
	人件費	正規職員従事人数	人			1			
		延べ業務時間	時 間						
		人件費計 (B)	千 円	0	0	0	0	0	0
		トータルコスト(A)+(B)	千 円	0	0	666	0	0	0
⑤活動指標		ア	戸			29			
		イ	戸			29			
		ウ							
⑥対象指標		カ	頭			129			
		キ	頭			85			
		ク							
⑦成果指標		サ	%			100			
		シ							
		ス							

事務事業ID	1742	事務事業名	畜産振興事業
--------	------	-------	--------

(3) 事務事業の環境変化・住民意見等

① この事務事業を開始したきっかけは何か？いつ頃どんな経緯で開始されたのか？

・平成29年3月29日に制定した大船渡市畜産振興対策事業費補助金交付要綱より開始。

② 事務事業を取り巻く状況(対象者や根拠法令等)は、開始時期あるいは後期基本計画策定時と比べてどう変わったのか？

・平成22年に、市内で予防接種しなかった畜産農家で、アカバネ病被害を受けた牛1頭があった。

③ この事務事業に対して関係者(住民、議会、事業対象者、利害関係者等)からどんな意見や要望が寄せられているか？

・アカバネ病の蔓延等は畜産農家の経営に甚大な影響を与えることから、生産者、農協から継続してほしいという要望がある。
・他の4種目においては、畜産農家の経営安定の観点から継続の要望がある。

2 評価の部(SEE) * 原則は事後評価、ただし複数年度事業は途中評価

目的 妥当性 評価	① 政策体系との整合性 この事務事業の目的は当市の政策体系に結びつくか？意図することが結果に結びついているか？	☐ 見直し余地がある ⇒【理由】 ☒ 結びついている ⇒【理由】 ・人工授精経費補助、公共牧野運搬費補助、牛削蹄経費補助、アカバネ病予防ワクチン接種補助、牛ウイルス性下痢・粘膜病予防ワクチン接種補助の5種目の対策は、畜産農家の経営安定につながり、市の農業振興を推進する。
	② 公共関与の妥当性 なぜこの事業を当市が行わなければならないのか？税金を投入して、達成する目的か？	☐ 見直し余地がある ⇒【理由】 ☒ 妥当である ⇒【理由】 ・アカバネ病予防対策は国で定められた疫病であり、県でも予防接種の指導がある。他の4種目においては、畜産農家の経営安定の観点から妥当である。
	③ 対象・意図の妥当性 対象を限定・追加すべきか？意図を限定・拡充すべきか？	☐ 見直し余地がある ⇒【理由】 ☒ 適切である ⇒【理由】 ・和牛、乳牛を問わず、市内で牛を飼育する畜産農家を対象とする事業であり、対象、意図とも妥当。
有効性 評価	④ 成果の向上余地 成果を向上させる余地はあるか？成果の現状水準とあるべき水準との差異はないか？何が原因で成果向上が期待できないのか？	☐ 向上余地がある ⇒【理由】 ☒ 向上余地がない ⇒【理由】 接種時期や牛の入れ替え等があることから100%にすることは難しいが、農協と密接に連携し、飼養農家の状況を常に把握することにより100%に近づける。 引き続き、周知徹底を図り、疾病対策等を行う。
	⑤ 廃止・休止の成果への影響 事務事業を廃止・休止した場合の影響の有無とその内容は？	☐ 影響無 ⇒【理由】 ☒ 影響有 ⇒【その内容】 ・助成金を廃止(縮小)すると、市農協及び畜産農家の負担が増すと考えられ、アカバネ病予防接種率の低下などにより、市内の牛飼養頭数の低下につながることが懸念される。
効率性 評価	⑥ 事業費の削減余地 成果を下げずに事業費を削減できないか？(仕様や工法の適正化、住民の協力など)	☐ 削減余地がある ⇒【理由】 ☒ 削減余地がない ⇒【理由】 ・平成29年度に見直した事業のため、今後の経過を観察する必要がある。
	⑦ 人件費(延べ業務時間)の削減余地 やり方を工夫して延べ業務時間を削減できないか？成果を下げずにより正職員以外の職員や委託でできないか？(アウトソーシングなど)	☐ 削減余地がある ⇒【理由】 ☒ 削減余地がない ⇒【理由】 ・助成金支出事務にかかる担当者の人件費のみであり、削減できない。
公平性 評価	⑧ 受益機会・費用負担の適正化余地 事業の内容が一部の受益者に偏っていて不公平ではないか？受益者負担が公平・公正になっているか？	☐ 見直し余地がある ⇒【理由】 ☒ 公平・公正である ⇒【理由】 ・事業種目によって受益者の負担割合は変動するが、受益者は、概ね事業費の7割程度を負担しており、応分の負担と考えられる。畜産振興を図る上で、市が事業費の3割程度を負担することは適正である。

3 今後の方向性(次年度計画と予算への反映)(PLAN)

(1) 改革改善の方向性		(2) 改革・改善による期待成果	
① 現状維持 ② 改革改善(縮小・統合含む) ③ 終了・廃止・休止		左記(1)の改革改善を実施した場合に期待できる成果について該当欄に「●」を記入する。 (終了・廃止・休止の場合は記入不要)	
(3) 改革改善を実現する上で解決すべき課題とその解決策又は特記事項等			
・市が助成をやめると、同様に助成をしている市農協にも影響を及ぼす。検討する場合は、市農協も加える必要がある。			

		コスト		
		削減	維持	増加
成果	向上		●	
	維持			×
	低下		×	×

4 課長等意見

(1) 今後の方向性	(2) 全体総括・今後の改革改善の内容
① 現状維持 ② 改革改善(縮小・統合含む) ③ 終了・廃止・休止	現状維持で継続する。